

2018年11月25日

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者：坂本 徹

1. 概要

歩行名称	山陰ブロック(4)
歩行区間詳細	スタート地点: JR 境港駅 ゴール地点: JR 田儀駅
実施期間	2018年10月22日(月)～10月25日(木)
全歩行距離	135Km

2. メンバー表

No.	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	リーダー	篠崎 次郎	79	4日	
2	記録・報告	斎藤 篤二	79	4日	
3	記録	松田 治男	67	4日	
4	記録・報告	坂本 徹	61	4日	
5	企画・庶務	松本 明子	69	4日	
6	調査	松本 美和	53	4日	

3. 歩行の概要

	月日	出発地～到着地	歩行距離	歩行参加者
1	10/22	境港駅～島根町加賀	40Km	篠崎、斎藤、松田、坂本、松本明子、松本美和
2	10/23	島根町加賀～小伊津	39Km	同上
3	10/24	小伊津～大社町	41Km	同上
4	10/25	大社町～田儀駅	15Km	同上
合計			135km	

4. 参加費

参加者延べ日数 4日*6人=24人日

参加費合計 2,400円

《参考》一人当たりの費用

①レンタカー 13,521円(内訳:車借用と保険 11,610円、・ガソリン代 1,439円、高速道路代 472円)

②宿泊料 1泊目:民宿なかよし 8,640円

2泊目:ひらたメイプルホテル 6,930円

3泊目:旅館銀海 10,485円

飲物代等 2,828円

③その他 潜戸観光遊覧船 1,500円、歩く会費 400円

①～③合計 44,304円(現地往復の交通費を除く※)

※東京からの交通費は往路(東京→米子空路)16,440円、復路(広島→東京新幹線自由席)18,040円

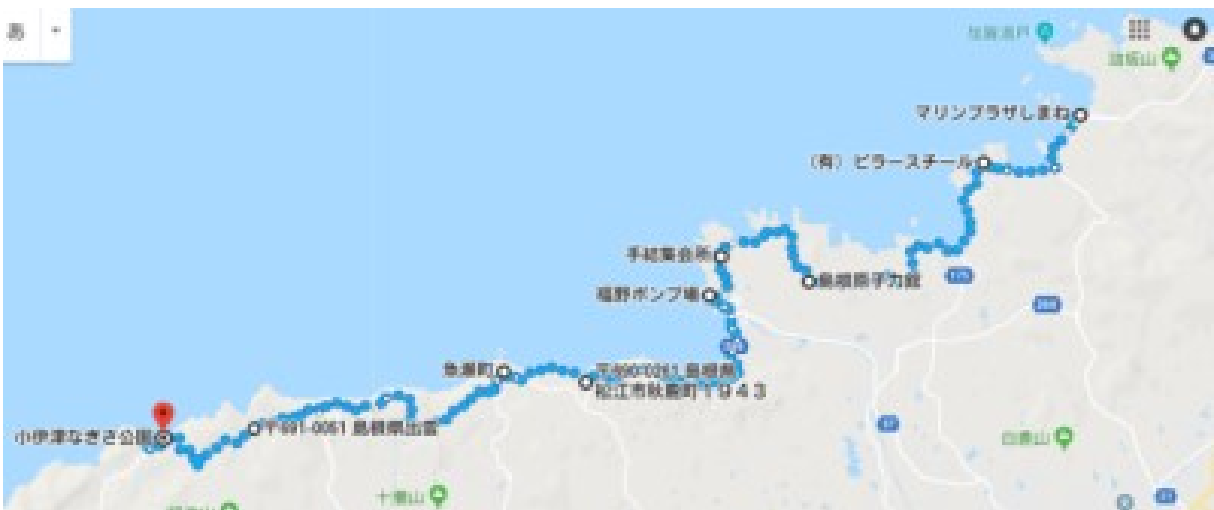
5. 歩き方

- 3班(各班2名、最終日は2班)リレー方式で歩いた。
- 歩行の効率化のためレンタカーを併用した。
- 地図は次のとおり

【1日目】スタート:JR境港駅(境水道大橋入り口) → ゴール:島根町加賀(マリンプラザしまね)



【2日目】スタート:島根町加賀(マリンプラザしまね) → ゴール:小伊津(小伊津なぎさ公園)



【3日目】スタート:小伊津(小伊津なぎさ公園) → ゴール:大社町(くにびき夕日公園)



【4日目】スタート:大社町(くにびき夕日公園) → ゴール:JR田儀駅



6. 歩行の詳細

【1日目】10月22日(月)晴れ

メンバーは、東京からは空路で米子空港 10 時 55 分着、金沢からは JR で前日米子入り、甲府からは夜行バスで早朝米子着。坂本が 8 時に米子駅前のレンタカー店でホンダのステップワゴンを借り受けて、松田さんと合流。時間があるので、1 班の歩行ルート下見と島根半島東端の美保関灯台見学をして、美保関神社で歩行安全祈願を行った。予定どおり米子空港でメンバー全員が揃い、11 時 15 分米子空港を出発してスタート地点に向かう。

今回の海岸線歩行区間は、島根半島が大半を占めており、半島北部の海岸はリアス式海岸で変化に富み、多くの湾奥に小さな漁村が並んでいる。歩行ルートも海岸線沿いの平坦な道は少なく、山側に入ったアップダウンの道が多かった。

1 班(松本美和、坂本徹)

境水道大橋入り口→日向浦→宮ノ谷→男鹿→雲津→諸喰→法田港→メテオプラザ 14.9km

11:35 境水道大橋入り口をスタート。前回歩行では、大橋入り口を通過して境港駅に到達したため、今回歩行ではここがスタート地点。全長 709m、海拔 40m の境水道大橋の上から日向浦を行き交う船を眺めた。12:10 昼食は水道大橋の真下の日陰にて。大山を見渡せる島根半島の南側というレアな道を楽しんだあと、島根半島を縦断する山道へと突入。この高低差を楽しむランナーと出会って、脚も心も軽くなった。14:45 島根半島を縦断して法田港に着く。イカ釣り船が 6 隻、係留されていた。15:20 メテオプラザ (ゴール) に到着。お迎えのレンタカーが到着するまで時間があるので、メテオミュージアムに入場し、宇宙からの旅人・美保関隕石 (1992 年 12 月に美保関町内の民家に落下、太陽系の誕生とともに生まれて旅してきた隕石。重量 6.38 kg、最大長 25.2 cm) と遭遇した。



今回歩行のスタート地点



境水道大橋と遠方に大山を望む



境水道大橋から日向浦を行き交う船を眺める



島根半島の南側から大山を望む



法田港に係留されたイカ釣り船



ゴールのメテオプラザ

2 班(松田治男、松本明子)

メテオプラザ→笹子→片江→菅浦→北浦→笠浦漁港 12.0 km

米子空港から車で七類港のメテオプラザまで移動し、隠岐島行きフェリーの乗り場で昼食。

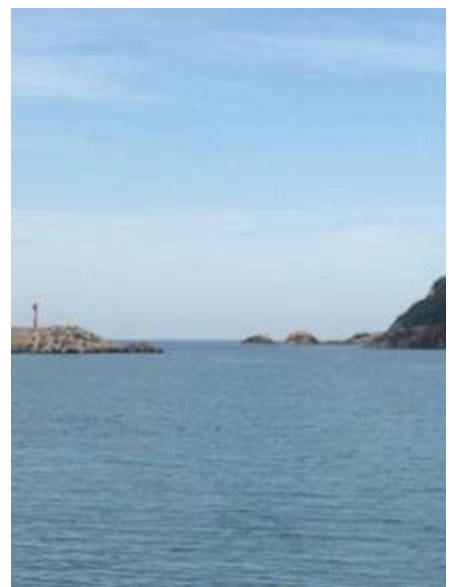
12:15 歩行スタート (主に中国自然歩道を快適に歩く)

12:40 笹子港

13:10 片江港



笹子港 青島を望む

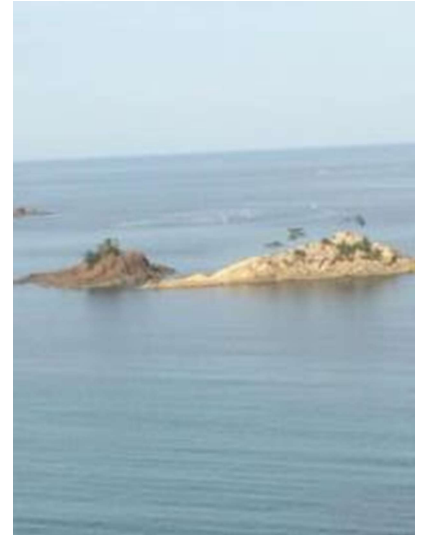


片江港 湾の風景

14:20 北浦

手前の峠道でイノシシが檻に捕獲されたままだった。

15:30 笠浦漁港（ゴール）到着



北浦の「伊奈頭美(いなづみ)神社」の鳥居 笠浦港手前の黒カスカ、白カスカ島

3班(篠崎次郎、斎藤篤二)

笠浦漁港→瀬崎→野波→佐波→マリンプラザしまね 12.6 km

13:20 笠浦漁港はレンタカーを入り口近くの道路脇に駐車し、スタートする。県道431号線を西に向かい、海岸から数十メートルのわりと平坦な道を歩く。日本海とは思えない青い海を眺め遅い昼食を道端でとる。

14:30 野波入口近くでそばの花が咲き、モズのさえずりが聞こえ、詰坂トンネルを進む。

15:40 マリンプラザしまね（ゴール）に到着



晴天の野波の風景

2班は引き継いだレンタカーで、1班ゴールのメテオプラザ、3班ゴールのマリンプラザしまねにてメンバーを拾って、17時10分民宿「なかよし」到着。目の前に広がる白砂の小浜海岸にあるお宿。夕食は、背骨の両側から包丁を入れてカラリと揚げた黒ムツや、生姜で炊いた鮭の白子、しっかり身の詰まったカニ、海山の幸の小鍋を平らげながら、歩き旅の幸せをしみじみと。翌日は、近くの日御碕神社で「ガッチ祭り」が行われるとのこと。



平らげた夕食の料理



民宿なかよしの前で

【2日目】10月23日(火)曇りのち小雨

8時にお宿を出発。「ガッチ祭り」が今日行われる日御碕神社に立ち寄り、スタート地点に向かう。日御碕神社には、まだガッチはいなかったけれど、地元の親子にちょっとだけお祭りのことが聞けた。

《参考》ガッチ祭り

鬼や獅子頭の面をかぶったガッチたちが、注連縄のようなシッポを持ち、奇声をあげながら区内を清めてまわる。シッポで叩かれたり、獅子頭の面のガッチに頭を噛まれたりすると無病息災になるといわれる。もともとは神様の里帰りの道を清めるお祭り。



ガッチ祭りが行われる野波の日御碕神社



鬼や獅子頭の面をかぶったガッチたち(松江観光協会HPより引用)

1班(斎藤篤二、松本明子)

手結(たゆ)→片句→御津→楡木→マリンプラザしまね(加賀浜) 13.6 km

9:10 スタート地点を変更し、逆に1班のゴール予定地「手結(たゆ)」をスタートとして東進する。海拔150メートルの山道を上り、島根原子力発電所を俯瞰できる街道を約1時間以上にわたって歩く。御津付近の海岸は褶曲した岩石層(高さ数10センチ、幅、長さとともに数10メートル)が水平に海辺に横たり波しぶきに曝される。

13:40 マリンプラザしまね(ゴール)到着



手結にて1班と2班同時スタート



島根原子力発電所遠望

2班(篠崎次郎、坂本徹)

手結集会所→古浦→六坊→魚瀬町漁協 12.8km

9:10 手結を1班と同時スタート。海岸に面した恵曇(えとも)の工業団地を通り、古浦の中国自然歩道入口に着く。

11:10 中国自然歩道入口は島根半島を縦断するトンネル工事が行われて、立ち入り禁止の看板があった。工事現場を避けて進む。中国自然歩道（林道横手線）は海拔 100～150mの舗装された道路であるが、崖崩れのため車は長い間通行止となっていた。等高線に沿ってカーブの多い道を歩くが、路上にヘビ 2 匹と出合って、六坊に着く。海岸に近い道路を進み、ゆるやかな登り坂を登り切ったところがゴールであった。12:30 魚瀬町漁協（ゴール）到着。雨が本降りとなった。



通行止の中国自然歩道(林道横手線)



中国自然歩道から恵曇方面を望む

3 班(松田治男、松本美和)

魚瀬町(おのせ)漁協→畑浦→伊野浦→坂浦→地蔵鼻→小伊津なぎさ公園 12.9km

10:00 魚瀬(おのせ) 町漁協スタート。歩き始めてしばらくするとポツリ、ポツリと雨が降ってきた。前半、海は近いけれどあまり見えず山歩きの気分。途中で会ったミニパトのおまわりさんは、人懐っこい人で、シカやイノシシは出るけど熊は大丈夫とのこと。心配していたトイレは、生活バスの折り返し点に仮設あり。のんびり歩いていたらゴールした 2 班から、先に私たちを迎えに来るとの連絡があって、みんなを待たせないように頑張らなくっちゃ! とスピードアップ。松本美和さん曰く、「最後は、別の車をお迎えと勘違いして、足の痛む松田さんを振り回してしまった。ごめんなさい」とのこと。

雨模様の中の中国自然歩道のウォーキングとなり、歩行中の写真はなし。

13:30 小伊津なぎさ公園（ゴール）到着

2 班は引き継いだレンタカーで、3 班ゴールの小伊津なぎさ公園でメンバーを拾って 14 時 50 分マリンプラザしまね到着、1 班と合流。

15 時 昨日は最終便に間に合わず、乗船できなかった潜戸観光遊覧船に乗り込む。雨も止んで、なんと貸切で加賀の潜戸へ。神話が伝わる海の大洞窟「新潜戸」と賽の河原のある仏潜戸「旧潜戸」を巡った。人知を超える景観に神話や妖怪伝説がなぜ生まれ、今も人々の中に息づいているのかが感じられる不思議な体験だった。



神話が伝わる海の大洞窟(高さ 30m もある海食洞)



賽の河原のある仏潜戸を上陸して見学

16時10分 マリンプラザしまね出発、島根ワイナリー経由でお宿の平田メイプルホテルに17時40分到着。チェックインして、ホテルから徒歩10分の温泉「ゆらり」へ。中国地方最大級の100%源泉かけ流しの日帰り温泉施設、思いがけず広々とした露天風呂まであり、アルカリの湯が雨に打たれた体をほぐしてくれた。夕食は「ゆらり」のお食事処で割烹料理に頂く。

【3日目】10月24日(水)晴れ時々曇り

8時 お宿を出発、近くのコンビニに立ち寄り昼食を調達して、スタート地点に向かう。

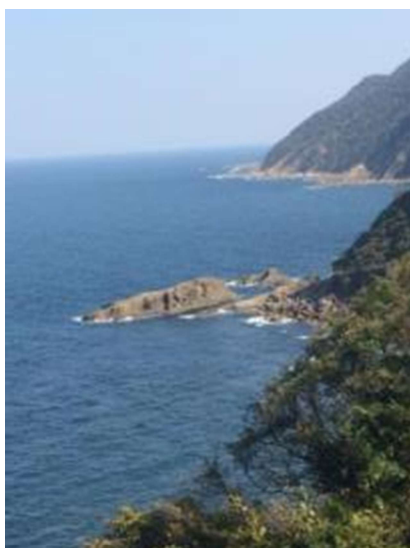
1班(篠崎次郎、松田治男)

小伊津なぎさ公園→三津町→美保町→下谷→塩津→釜浦町→十六島風車公園 15.0 km

8:30 小伊津漁港を出発し、がけ崩れ補修工事中の海岸道路を歩いて三津港に到着。海岸線を美保町まで歩けるような看板があったので、100mほど進んで、地元のおじさんに聞いたところ、途中で海岸線の道路は行き止まりになっているとのこと。矢代岳の南側(海岸線の反対側)を通る旧道を教えてもらい、西谷方面に向かう。車のほとんど通らない旧道を三津峠まで登り、沼地を経由して県道に出る。県道を進み、唯浦トンネルを通過すると美保町、塩津町の海岸線に出る。

このあたりから十六島(うっぷるい)風車公園までは日本一の風力発電の地域とのこと、海岸に沿った山頂に巨大なプロペラが回っている。中国自然歩道に沿っての歩行で、山栗などを拾いながら、快調に歩いた。

12:30 十六島風車公園(ゴール)到着



塩津町 辺りからの大ジカ、小ジカ島

2002年公開の錦上良成監督「白い船」

に因んだ「白い船公園」モニュメント

《参考》十六島

「十六島」と書いて「うっぷるい」と読む。島根半島西部、出雲市十六町の海岸に突出した岬で、大岩石

や奇岩が林立し日本海の荒波にもまれ、山陰でも屈指の海岸美を呈している。十六島の語源は、海藻を採って打ち振るって日に乾す「打ち振り」がなまった説、朝鮮語の古語で「多数の湾曲の多い入江」という意等の説があるが、十六島の漢字は海苔島が十六あったところからあてられたとも言われている。その他、数多くの説があるが、はっきりしたことはわかっていない。

2班(斎藤篤二、松本美和)

十六島風車公園→小津→布勢下→河下→鷺浦コミュニティ消防センター 11.2Km

魚瀬町漁港から塩津に向かう道路は通行止めの箇所があるため、平田に戻って十六島町に車で向かう。

9:15 十六島風車公園スタート

10:15 河下、ここから猪目町までの道から眺める海は真っ平らな岩のステージが海辺に長く横たわり生成の過程が不明でも圧巻でした。海岸線には、鬼の洗濯板のような地形が点在していて、かつてはつながっていたのだらうと思わせるスケールの大きな景観である。

11:30 猪目遺跡、話好きのおじさんに猪の目という地名の由来を教えてもらった。穴の中に、まるで目玉のような岩があり、加賀の潜戸の初期はこんな感じだったのかも。近くには、黄泉の国とつながると『出雲風土記』に記されている猪目洞窟遺跡も。神話の土地を踏みしめながら歩いているという思いが湧き上がってきた。

12:00 昼食

12:40 鷺浦消防コミュニティセンター (ゴール) 到着



猪目の海岸の平坦な石畳み



十六島風車公園のスタート地点にて



猪目という地名の由来となった場所



猪目洞窟遺跡入口

3班(松本明子、坂本徹)

鷺浦コミュニティ消防センター→日御碕→稲佐→大社町→くにびき夕日公園 15.1 km

8:55 鷺浦漁港前の鷺浦コミュニティ消防センターをスタート。県道 23 号線高尾ゆうゆうラインの道路をゆるやかに登り、高尾トンネルを抜けてゆるやかに下り、日御碕地域の海岸に出る。筆投島、赤石鼻など海岸線近くにある小さな島や岸壁を眺めながら進むと、「銀海」の看板が目に入る。

12:10 今夜宿泊する「銀海」にてお昼休憩、大社漁港では魚介類直売所の海流館を見学する。稲佐の浜海水浴場、中国自然歩道、出雲路自転車道を通してゴールへ。

14:35 くにびき夕日公園 (ゴール) 到着



スタート地点の鷺浦漁港にて



日御碕地域の海岸の眺め

2班は引き継いだレンタカーで、13時20分1班ゴールの十六島風車公園でメンバーを拾って、14時3班ゴールの「くにびき夕日公園」に到着。14時35分3班がゴールに到着して、出雲大社に移動する。15時 出雲大社を参拝。松本美和さん曰く、「出雲大社を3年続けてお参りするご縁に感謝、神楽殿の大しめ縄は初めて見た」とのこと。

日御碕の夕日まで時間があるので、昨日営業時間17時終了で試飲できなかった島根ワイナリーの試飲即売館バックスに行き、各種ワインを試飲。

心残りなく日御碕に移動、日御碕灯台は16時30分で営業終了していたが、展望台から美しい夕日（日の入時刻17時24分）を眺めることができた。松本美和さんは日御碕神社まで足を延ばした。

島根県の観光地・観光施設の入込客延べ数は、トップが出雲大社、2番が日御碕、3番が島根ワイナリー。この日にトップ3を観光してしまった。

17時45分 日御碕を出発して、18時10分お宿「銀海」に到着。夕食では豪快な活魚料理に舌鼓を打つ。



出雲大社神楽殿の大しめ縄にて



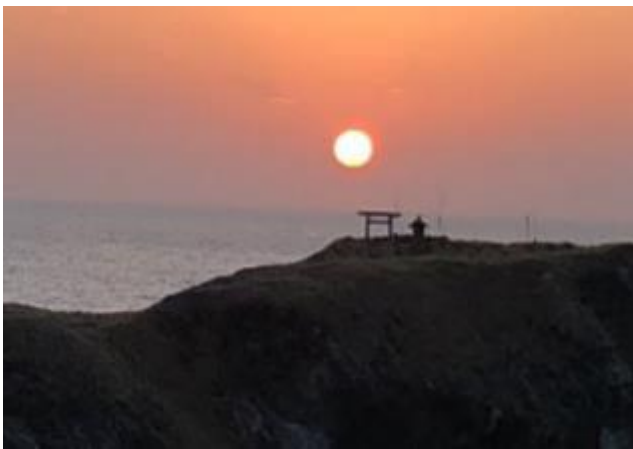
出雲大社御本殿の西側にて



島根ワイナリーの試飲即売館/バックス



日御碕神社



夕日の祭りが行われる経島(ふみしま)の鳥居を背景に



日御碕の展望台から

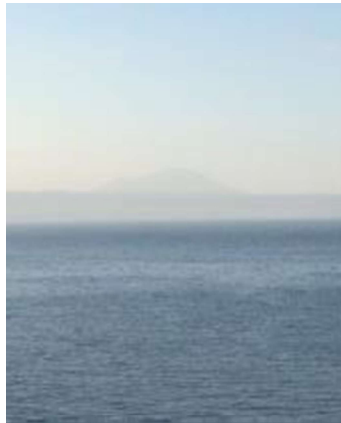


「銀海」の夕食は、これで3人前！のお刺身とハコフグのみそ焼きに感激！



【4日目】10月25日(木)晴れ

7時45分 旅館の主人に見送られてお宿を出発。旅館の主人はなんと90歳だった。若さに皆驚くが、秘訣は地域の役員を長年引き受けていること、漁師でもある主人から元気をもらった。



旅館から見た「三瓶山」(7時半頃)



旅館銀海の前にて

1班(松本美和、坂本徹)

くびき夕日公園→外園町→差海→中砂子→道の駅キララ多岐 10.6km

8:05 スタート。松本美和さん曰く、「歩き旅で走れる♪のは、とてもうれしく、皆さんの配慮とお付き合いいただいた(お目付け役?)坂本さんに感謝です」とのこと。走ったといっても、下り坂をゆるゆると。十分間に合うとのことで、最後は波打ち際で波と戯れながら、まさに海岸線を歩く旅。大人になると、なかなかできない体験である。今回、唯一の町中で、登校する学生さんと挨拶を交わし暮らしの気配を感じるなど、土地の人の暮らしにほんの少し触れることもできた。そして、出雲は晴れていても、雲がもくもくしていた。

9:55 道の駅キララ多岐(ゴール)到着、レンタカーを引き継いで2班のゴール地点JR田儀駅に向かう。



くびき海岸大橋にて



キララビーチの砂浜から歩いてきた海岸線を振り返る

2班(篠崎次郎、斎藤篤二、松田治男、松本明子)

道の駅キララ多岐→小田町→田儀駅 4.7km

8:15 道の駅キララ多岐に到着、8:30 出発、海道沿いの国道9号線を歩く。小田町は特産のイチジク畑が広がる。途中の道路案内版に下関まで286kmとある。いよいよ山陰路の最終行程のゴールが迫ってきた。

9:40 田儀駅(ゴール)到着、無人駅でも駅舎はモダンにできている。

10:10 1班がレンタカーを引き継いで田儀駅に到着して全員が揃う。今回歩行の最終地点のJR田儀駅の駅舎をバックに集合写真を撮る。

今回歩行最終地点JR田儀駅



の上り電車(出雲市方面行き)



今回歩行の最終地点JR田儀駅にて

お昼は道の駅キララ多岐のレストランで海鮮丼を予定していたが、11時開店前であるため、レンタカーで広島に向かって先に進むこととした。出雲に来たので、本格出雲そばを食べるため出雲市浜町の「そば縁」に行く。

松本美和さん曰く、「景色のよいお店でおいしい出雲そばといううれしいサプライズ。海苔も地元ならではの種類で、出雲そばは松江に限ると思っていたけれど、考えを改めた」とのこと。



3段の割子そば、出雲そばの定番

お昼を食べて、レンタカーは高速道路でJR広島駅に向かう。15時広島駅新幹線口近くのレンタカー店に到着。予定どおりの行程を終えてJR広島駅にて解散となり、各々メンバーは帰路についた。

